

年月日

19
12
06ペー
ジ

25

NO.

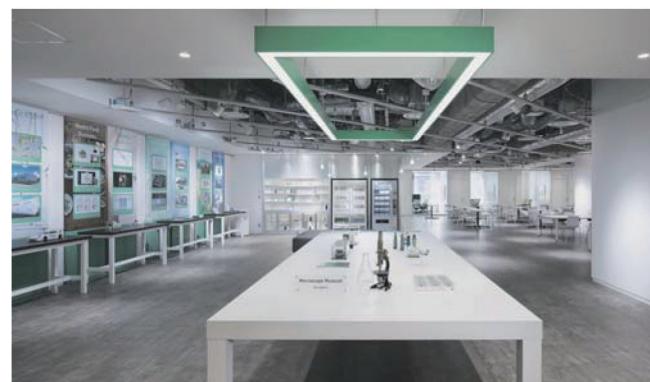
不動産サービス大手CBREは、2014年に東京本社の移転とともにオフィスのデザインを一新した。窓から皇居が見える土地の特性を表現するため、会議室には桜田濠など、皇居のお濠の名前が付けられている。また、デザインの異なるフロアの壁には、パリ、ニューヨークなど海外の都市の名前を描くことで、グローバル企業らしさを示す。ここ数年、オフィスは

投資だと認識する経営者が増えてきたが、オフィスのデザインによって会社のメッセージを従業員に伝えることができる。CBREの広報担当によると、オフィスを見学した学生の内定辞退率が減ったという効果もあったそうで、オフィスのデザインは経営者の想定以上の効果を發揮することもあるようだ。

日本を代表するサイエンスベンチャーやユーグレナは、人と地球を健康

△デザインのチカラ△

(19)



ユーグレナ本社「ラボ」と呼ばれる来客ゾーン。研究室をイメージさせる無機質な印象の空間に、コーポレートカラーの緑がアクセントに

にするという理念のもと、05年に設立された。同社の出雲充社長が18歳の時に訪れたバングラデシュで栄養失調の現状を目の当たりにしたことから、燃料として研究開発もしており、国内外から注目を集めている。

ミドリムシの種類や研究拠点を知ることができます。遊び心ある顕微鏡のデイスプレー、ミドリムシの飲料を試飲できるなど、国内外から訪れる来客は、ここで会社の歴史や事業について知ることができます。

「ラボ」のオープンベースは、顧客なども使用できるコワーキングスペースをイメージしてお

り、ユーグレナの社員とのオープンソースショングが期待されている。14年に東証一部上場したが、「ベンチャースピリット」を持ち続け成長していくことをするユーグレナの心意気を感じることのできるデザインだ。

(西谷直子・三井デザインテック・コミュニケーション・エディター)

まるで近未來の研究室

「ラボ」のオープンベースは、顧客なども使用できるコワーキングスペースをイメージしており、ユーグレナの社員とのオープンソースショングが期待されている。14年に東証一部上場したが、「ベンチャースピリット」を持ち続け成長していくことをするユーグレナの心意気を感じることのできるデザインだ。

(西谷直子・三井デザインテック・コミュニケーション・エディター)